

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第247回定期演奏会
The 247th Regular Concert

『失われゆくもの、 遺すべくももの』

2026年

1月28日(水)

19:00開演 (18:30開場)

■会場：豊洲シビックセンター 5Fホール

■後援：公益財団法人日本伝統文化振興財団
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION

演出：穂積大志
演出助手：久保田晶子
構成：田野村聡
舞台監督：中島隆

■主催：特定非営利活動法人日本音楽集団



第247回定期演奏会

The 247th Regular Concert

『失われゆくもの』

プログラム

1. 鳥と砂と海と (長澤勝俊 作曲 /1983年)

〔指揮〕 箕輪健太
 〔胡弓〕 木場大輔(助演)
 〔笛〕 新保有生
 〔尺八Ⅰ〕 阪口夕山
 〔尺八Ⅱ〕 川俣夜山
 〔三味線〕 穂積大志
 〔琵琶〕 藤高りえ子
 〔箏Ⅰ〕 久東寿子
 〔箏Ⅱ〕 渡辺正子
 〔箏Ⅲ〕 喜羽美帆
 〔十七絃〕 城ヶ崎美保
 〔打楽器〕 多田恵子
 盧慶順

日本には古くから「鳴り砂」または「鳴き砂」と呼ばれる、砂が琴を奏でるような音を出すという現象があります。現在でも「琴ヶ浜」「琴引浜」「鳴浜」等という地名で残っており、その個所は全国で20ヶ所にもものぼるといわれています。

かつて、たえなる音を奏でたこれらの浜辺は、海と海岸の汚染が進むにつれ、その歌声は年ごとに小さく、細くなってきています。

冬の荒れ狂う怒濤に洗い浄められた砂は、鳥のあゆみにも敏感に反応し、ささやかなやさしい自然の歌をうたい続けてきました。

しかし現在の日本は自然の摂理に反する事象が氾濫しています。「鳴き砂」の音を絶やすことは、次に人間が泣くことになるのではないのでしょうか。

人間と自然の調和の中にこそ、明日への平和があることをねがい作曲しました。

「鳥と砂と」「鳥と海と」の二章より出米しています。(作曲者)

1983年10月5日、日本音楽集団第79回総合定期演奏会にて初演。

1992年、第123回定期演奏会にて一部改訂初演。



2. 流觴曲水譜 (三善晃 作曲 /1986年)

〔尺八〕 田野村聡
 〔箏Ⅰ〕 桜井智永
 〔箏Ⅱ〕 三宅礼子
 〔十七絃〕 丸岡映美

1986年、邦楽4人の会の委嘱により作曲され、初演された。曲名の「觴」は、杯のこと。折れ曲がった水の流れに杯を浮かべ、それが流れついた所にいた人が杯の酒を飲むのだが、それまでに詩を作らねばならない、という晋の時代の遊び。のどかな風景だが、そこには私たちが生きる時と、その中で不図の出遇い(はからずも)とが、たおやかに描かれている。それはまた、音楽を奏する人たちの間を流れる螺旋状(じねん)の自然の理をも寫しとっているように思われる。

曲は、短い「序」につづいて、「流」「觴」「曲水」の三部が切れ目なしに流れる。

「序」は時の生態を想い、「流」は尺八の導入につづいて箏により静から動への流れを叙述。「觴」はその事と尺八の出遭い。「曲水」は主として尺八による水の変容である。(作曲者)

(1986年3月5日 邦楽4人の会 初演時プログラムより引用)

3. 花天月地～絃楽器のための～ (相澤洋正 作曲 /2026年) 委嘱新作

〔細棹三味線〕 杵家七三
 〔太棹三味線〕 山崎千鶴子
 〔琵琶〕 久保田晶子
 〔箏Ⅰ〕 桜井智永
 〔箏Ⅱ〕 石井香奈
 〔箏Ⅲ〕 木内麻由
 〔十七絃〕 久本桂子

「花天月地(かてんげっち)」とは花が枝いっぱい咲き誇り、月が明るく大地を照らす、春の夜の美しい情景を表す四字熟語です。

その情景をイメージして【蕾からぼつぼつと花が開き始め、だんだんと広がって満開になる】という大きな流れで考えました。「美しい曲を書きたい!」といつも思っているのでその情景を思い浮かべつつ、主に箏を中心に曲の雰囲気を考えていきました。三味線や琵琶は箏の和音の響きの中でソロのように動く場面もあります。全体としては3部形式で春の夜の美しい景色を絃楽器だけで表現できたらと思いました。

曲の最後の方は音楽的な盛り上がりを入れつつ、儂い夢のごとく消えゆくように終わります。

各楽器の音色、演奏者の技、呼吸、気迫を間近に感じながら皆さんそれぞれが思う「春の夜の情景」を楽しんでいただけたら嬉しいです。(作曲者)

4. 聲ヲ聴ク～竹管楽器のための～ (高橋久美子 作曲 /2026年) 委嘱新作

〔竜笛〕 あかる潤
 〔笛〕 新保有生
 〔笙〕 東田はる奈
 〔箏〕 三浦元則
 〔尺八Ⅰ〕 元永拓
 〔尺八Ⅱ〕 饗庭凱山
 〔尺八Ⅲ〕 川俣夜山
 〔打楽器〕 富田慎平

この曲は、笙、箏、龍笛、笛、尺八3管と打楽器による編成で、打楽器以外はすべて竹管楽器によるものです。また使用する打楽器の殆どを木製でまとめてみました。

邦楽器というと箏、三味線といった絃楽器を思い浮かべる方もいらっしゃると思いますが、今回はあえて絃楽器をのぞく邦楽器、そして雅楽器の「竹管楽器」にスポットをあてて、とのお題でした。

が、実際には作曲の過程で問題になったことは竹管楽器のみによる編成というよりは、邦楽、雅楽の2つの異なる背景をもつ管楽器をどのように1曲の中に収まりよく配置させるか?ということでした。音色の違いや、音域の偏り、そもそも楽器によっては出る音が極端に限られているという問題もあります。考えてみれば、これらの楽器を交えた曲は以前に何曲か創ったことはありますが、この2つの背景をもつ竹管楽器の関係性を機能的に、とりもった楽器は箏や三味線のような絃楽器であったということに今さら気が付きました。それならば、この間をとりもつためにはどうすればいいのかを念頭に音構築していけばよいのではという発想で創作しました。皆様の耳にはどのように届くでしょうか?

(作曲家)

5. 星夢の舞 (吉松隆 作曲 /2002年)

〔指揮〕 稲田康
 〔笛〕 芝有維
 〔笙〕 東田はる奈
 〔箏〕 三浦元則
 〔尺八Ⅰ〕 阪口夕山
 饗庭凱山
 〔尺八Ⅱ〕 元永拓
 田野村聡
 〔三味線〕 今藤政優
 〔琵琶〕 久保田晶子
 藤高りえ子
 〔二十絃Ⅰ〕 三宅礼子
 渡辺正子
 〔二十絃Ⅱ〕 久本桂子
 石井香奈
 〔十七絃〕 丸岡映美
 木内麻由
 〔打楽器〕 多田恵子
 富田慎平

「星夢の舞」は、星から来た「夢の舞楽」七題。「プレイアデス舞曲集」や「すばるの七つ」などの〈星のための舞曲シリーズ〉の姉妹作で、^{モード}旋法による旋律片と変拍子のリズムによる7つの短い舞曲から成る舞踏組曲である。

2002年春の初披露では、北斗の七つ星によせる7つの舞曲として、序之舞から舞戲之舞までの七曲を並べたが、その後、^{おりかん}織音の三つ星によせる3つの舞曲斗々、^{とと}浮流々、^{ふるる}旦多を加え、全十曲の「一具」となった。

1. 序之舞 (じよのまい)
2. 流々 (るる)
3. 喜々 (きき)
4. 綺羅々 (きらら)
5. 点々 (てんでん)
6. 斗々 (とと)
7. 浮流々 (ふるる)
8. 旦多 (たんた)
9. 丁々 (てうてう)
10. 舞戲之舞 (ぶぎのまい)

日本音楽集団の委嘱により2002年初春より4月にかけて作曲。
 5月に初演。同年12月改訂。op.89。

(2003年 第170回定期演奏会、改訂初演プログラムより 作曲家)



笛
あか 潤
遠藤 悠紀
芝新 有維
孫保 生
山本 夢心

笙
東田 奈
三浦 はな

箏
西原 祐二
三浦 元則

尺八
饗庭 凱山
川侯 夜山
阪口 夕山
竹井 誠
田野 村
原郷 隆
測上 ラファエル
元永 拓
米澤 浩
渡辺 淳

三味線
今藤 優
杵家 三
長井 江
二代目 貢
三山 正
穂積 大
田弘 司
蓑田 啓
守啓 伊
山崎 千鶴

琵琶
久保 晶子
田原 順子
藤高 りえ

箏
石井 奈
伊藤 麻衣子
岡山 亮子
木内 由子
久東 寿子
熊沢 栄利
桜井 智永
佐藤 里美
島崎 春美

城ヶ崎美保
久本桂子
丸岡映美
三宅礼子
森真明
山田羽美
喜渡 辺正

打楽器
白杵美智代
尾崎太一
島村聖香
多田恵子
富田慎平
山内利一
盧慶順

指揮
稲田 康
菅米 英一
箕輪 健太

作曲
相澤 洋正
秋岸 寛久
川崎 絵都

篠田 大介
高橋 久美子
福嶋 頼秀

アートマネージメント
大西 愛子

楽器・舞台
中島 隆

代表
尾崎 太一

副代表
米澤 浩

事務局
中山美穂子

永久名誉団員
長澤 勝俊
田村 拓男

(☆印は新入団員
※印は休団中)
2025年12月現在

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 ◆個人会員10,000円(一口以上)
◆法人会員30,000円(一口以上)



ホームページにおいても、お申し込み方法など詳しくご案内しております。

【賛助会員】(口数・五十音順)

[法人会員]

日凸運送株式会社
株式会社青和運輸
株式会社青和トラフィック

[個人会員]

池内 伸子
伊藤 悦子
伊藤 哲彌

伊藤 美好
伊藤 憲夫
内山 小次郎
織田澤 康寿
柿崎 やよい
佐藤 玲子
新保 美恵子
西川 浩平
沼倉 哲哉

福田 暉男
三宅 一徳
元永 明希
元永 美代子
森 繁美
山本 福八
他3名
個人会員計21名
(2025年12月現在)



日本音楽集団

1964年創立。伝統的な日本の楽器である、箏・尺八・三味線・琵琶・胡弓・笛、小鼓・太鼓などの打楽器、笙・箏などの雅楽器による和楽器オーケストラです。和楽器数十名と指揮者による大合奏は迫力満点です。

現在では、定期演奏会を中心に、全国各地での公演、教育機関での音楽鑑賞会、録音・放送・映画・演劇などさまざまな分野で演奏活動を行っています。

海外では、ヨーロッパ、アメリカ、ロシア、中国、東南アジア、オーストラリア等、31カ国151都市で公演を実施。アイザック・スターン、ヨー・ヨー・マヤ、ゲヴァントハウス・オーケストラ、ニューヨークフィルとの共演を実現、海外でも高い評価を得ています。

文化庁芸術祭大賞、第2回音楽之友社賞、レミー・マタン音楽賞、モービル音楽賞など、受賞履歴多数。

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 2-19-15

TEL (03) 3792-8481 URL: http://kinko-do.com
FAX (03) 3792-8437 E-mail: tokyo@kinko-do.com

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビルB1 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp>

是非フォロー下さい



日本音楽音楽集団
Facebook